

News Letter

山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

■ 第36号 ■

2011年11月17日

CONTENTS

■ 機構からのお知らせ	1
■ 活動報告	2
■ JST地域産学官共同研究拠点整備事業 「やまぐちイノベーション創出推進拠点」	7
■ セミナーのご案内	8
■ 出展のお知らせ	8

発行 産学公連携・イノベーション推進機構
 連絡先 〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1
 電話 0836-85-9961 F A X 0836-85-9962
 e-mail yuic@yamaguchi-u.ac.jp
 URL http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/

機構からのお知らせ

知的財産部門ホームページがオープンしました

これまで、学内の皆様からは、知的財産権利化を行う時に必要な書式、様式が山口大学のHPからすぐに取り出せないとか、また、学外の皆様からは、山口大学の特徴的な知的財産活動について山口大学HPですぐにアクセスできないという声を多く頂いておりました。

これは、知的財産部門の各種情報は、産学公連携・イノベーション推進機構の活動の中で機能別に分散されて紹介されていたため、知的財産部門単位での活動や情報がアクセスしづらい状況となっていました。そのため、大学の特徴的な活動（知財関連の図書出版、特許情報検索システムの開発と活用、特許インストラクターの養成等）を行っているにも拘わらず、学内外への情報提供活動が必ずしも十分ではありませんでした。

以上のような背景で、この度、皆様方からのご要望にお応えして、知的財産部門の個別のHPを新たに作成しましたので、ご案内いたします。

<リンク先（知的財産部門HPのトップページ）>
<http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/chizai/chizai.html>

新しい知的財産部門HPの特徴は以下の通りです。

- ①産学公連携・イノベーション推進機構HPで機能別に分散していた知的財産関連の記事をひとつにまとめて、知的財産部門HPを新たに作成しましたので、知的財産関連の記事を探す時間がなくなり、アクセスが非常に簡単になりました。
- ②知的財産関連の記事は、機構HPと知的財産部門HPの両方へそれぞれリンクさせていますので、従来通り機構HPからも見ることができます。
- ③山口大学HPから、産学公連携・イノベーション推進機構HPや知的財産部門HPに簡単にアクセスできるように、山口大学HPの関連メニューバーに、産学連携、知財の名称を明記し、案内表示予定です。
- ④新しい知的財産部門HPのトップページでは、右記のように、詳細な全部のメニューバーが見えるようになりましたので、見たい記事にワンクリックでアクセスできます。



知的財産部門ホームページ（トップページ）

大学と研究機関、技術移転機関のための知財契約の実践的実務マニュアルを発刊

山口大学産学公連携・イノベーション推進機構では、このたび、すぐに使える豊富な契約文例収録のCD-ROM付きで、法律を専門としていない人に贈る、大学人による大学人のための知財等の契約実務書を発刊しました。



その記事が、日刊工業新聞2011年10月14日に掲載されましたのでご紹介いたします。

『大学の知財戦略“先手必勝” 産学連携担当者向け 実務マニュアル発刊 山口大

知財知識に乏しいコーディネーターも、異動まもない事務職員も、契約が遅いと不満の教員も、課題はこの冊子で解決。山口大学の産学公連携・イノベーション推進機構が中心にまとめた「大学と研究機関、技術移転機関のための知財契約の実践的実務マニュアル」（発行：(財)経済産業調査会、定価：3,990円）が出版された。企業の特許契約とは違う、大学などに特有な事情に合わせた知財契約に焦点を絞っており、現場関係者の強い味方になりそうだ。

産学連携では秘密保持にはじまり、共同研究、特許出願、特許実施許諾などさまざまな契約がある。大学は企業と違い技術移転が基本のため、一般的な企業間の契約条文が使えない。同マニュアルは、大学の立場で各契約の目的から留意点までを1、2ページで示してわかりやすい。着任間もない担当者でも、付属のCD-ROMで契約のひな型を探し、時間をあけずに相手企業に契約書案を送る“先手必勝”が可能だ。

さらに、研究を手がける教員の理解獲得でプラス効果を発揮する。「産学連携担当者が本書を利用して契約書の全体像を示すと、教員は業務の大変さに驚き、格段に協力してくれるようになる」と佐田洋一郎山口大教授は、学内クレーム減少のメリットを説明する。

近年は研究者出身の若手コーディネーターが増え、法的な知識が十分でないうえ、任期制でじっくり知財を学ぶ余裕もない。事務職員も異動となって契約業務が滞り、教員の不満が出がちだ。本書はこういった場面で力を発揮してくれそうだ。』

(日刊工業新聞2011年10月14日、第25面より)

(財)経済産業調査会の出版案内に掲載の記事：<http://books.chosakai.or.jp/books/>

<契約マニュアル書表紙(表裏)>

http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/information/pdf/20111019_1.pdf

<契約マニュアル書出版案内と申込書>

http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/information/pdf/20111019_2.pdf

活動報告

ドクター出身で活躍中の先輩を囲んでのセミナー

2011年7月25日(月)、産学公連携・イノベーション推進機構と農学部の協働により、農学部の学生を主対象とした「ドクター出身で活躍中の先輩を囲んでのセミナー」が開催されました。本セミナーは、博士後期課程の学生のキャリアパスの形成支援と、修士や学部学生への博士後期課程への進学説明会を兼ねての開催となりました(参加者23名、うち学生14名)。

初めに司会者から今回のセミナーの開催趣旨と経緯について説明があり、山内農学部長からの開催挨拶、執行教授(農学部)による講師：増崎 真一氏(山口県警察本部科学捜査研究所)の紹介、その後に「博士後期課程を振り返って」と題して講演が行われました。そして、イノベーション人材育成支援室の大高アドバイザーによる博士後期課程への進学と支援制度についての説明へと続けました。

今回講師としてお招きした増崎 真一氏(山口県警察本部科学捜査研究所)は、平成20年3月に博士後期課程を修了されましたが、今回の講演の中ではご自身が博士後期課程に進まれた経緯や研究等について、また就職に至るまでの経緯等も含め、当時の悩みや喜び、参考になった経験談等を分かりやすく具体的にお話頂きました。また、現在お勤めの科学捜査研究所の概要やお仕事等についてもお話頂きました。参加された学生達にとっても今後キャリアパスを考える上で大変参考になる内容であり、講演後に設けた質疑応答の時間内に留まらず、セミナー終了後にも積極的に質問する学生の姿が見受けられました。



セミナーの様子

今回の先輩を囲んでのセミナーでは、学生達にとってはドクター出身者の方の生の声を直に聞く絶好の機会であり、進学や就職等今後の進路について熟思するきっかけになったと思われます。

平成23年度山口大学産学公連携・イノベーション推進機構セミナー(第3回) シリーズ第1弾！オープン・イノベーション戦略セミナー ～福岡LSIクラスターと大阪ガスのオープン・イノベーション戦略とは～

9月8日(木)、常盤キャンパスの先端研究棟3Fセミナー室において、産学公連携・イノベーション推進機構セミナー(第3回)【シリーズ第1弾！オープン・イノベーション戦略セミナー～福岡LSIクラスターと大阪ガスのオープン・イノベーション戦略とは～】を開催し、学内外から23名の参加がありました。(学内15名、学外8名)。

近年、グローバル化、製品開発のスピード化、顧客ニーズの多様化等、取り巻く環境の変化に対応するために「オープン・イノベーション戦略」を掲げ、自社の技術シーズや開発課題を公開し、他企業・大学等と積極的に共同研究を推進する企業が着実に増加しています。本学としても、こうした企業の動きを積極的に情報収集し、共同研究・受託研究に繋げていくことが重要かつ不可欠な活動になるとの考えから、オープン・イノベーションに積極的に取り組んでいる産・学・官、あるいは地域の活動に関する情報を、学内、あるいは地域の産学連携関係機関等に提供するため、「オープン・イノベーション戦略セミナー」をシリーズで開催することとしました。

今回は、その第1弾として、福岡県の先端LSI開発クラスター及び大阪ガス株式会社における取組みをご紹介いただくとともに、今後共同研究に発展可能性のある技術課題等について具体的に公開していただくよう企画しました。

セミナーでは、まず、福岡先端システムLSI開発クラスター事業総括の大津留榮佐久講師から、「福岡先端システムLSI開発クラスターの戦略と今後の展開」と題して、いわゆる知的クラスター事業として各地で取り組まれているプロジェクトの中でもS評価を受けている同クラスターの事業展開状況や次期プロジェクトの理念や概要を紹介いただきました。プロジェクトごとに、大企業、中小企業、ベンチャー企業、ユーザー企業、グローバルパートナー企業等で構成するチーム制で取り組むことが有効であること、また、スピード感をもって、かつ着実に実行していくこと、そのためにコーディネータの役割りが重要であること等、示唆に富んだお話となりました。また、今後、地域科学技術イノベーションプラットフォーム構築に向け、山口をはじめ各地域のクラスターとの連携を強化したいとの意向を示されました。

続いて、大阪ガス株式会社技術戦略部オープン・イノベーション室長の松本毅講師から、「大阪ガスのオープン・イノベーション戦略と技術課題」と題して、オープン・イノベーション戦略の重要性や同社の取り組みについて紹介がありました。「スピード」、「性能向上」、「投資効率向上」には、オープン・イノベーション戦略が有効であること、技術課題は要素技術ごとに分解して分かりやすく公開することなど、具体的事例を上げて紹介がありました。併せて、同社の技術課題7つの領域、55テーマの紹介がありました。

本セミナーは、大津留、松本両講師から、今後、オープン・イノベーションの推進にあたり、山口大学との連携を深めていきたい旨の話があり、また、出席者からは「オープン・イノベーションの重要性や利点が理解できた。」、「今後、企業との連携でニーズを引き出す際の説明に使える。」といった実践的な感想から、「目からウロコだった。」、「夢のある話が聞けた。」など、刺激的であったとの感想も多く寄せられました。

平成23年度山口大学産学公連携・イノベーション推進機構セミナー(第4回) 大学発ベンチャー起業セミナー～産学連携・成功の条件～

産学公連携・イノベーション推進機構では、10月7日(金)に、常盤キャンパスD棟41教室で、第4回機構セミナー・大学発ベンチャー起業セミナー(産学連携・成功の条件)を開催し、本学の教職員や学生、学内外のコーディネータ等、合わせて38人が参加しました。

大学発ベンチャーが陥る「事業を軌道に乗せられない部分」の克服の仕方、大学の研究を中心に「ニーズ志向ではなく研究シーズ発の事業」を成功させる必要条件を学ぶセミナーとしました。

サムコ株式会社の代表取締役社長で、本学客員教授でもある辻理氏が「産学連携・成功の条件」との演題で、起業や産学共同研究に関する経験談を交えた講演を行いました。大学発ベンチャー・成功の秘訣、産学連携・成功の条件について、熱心な意見交換が行われました。



大津留榮佐久講師
(福岡先端システムLSI開発クラスター)



松本毅講師
(大阪ガス株式会社)



セミナーの様子

平成23年度特許情報検索講習会(宇部地区第2回)を開催

産学公連携・イノベーション推進機構 知的財産部門の主催で、医学部の教職員・学生を主対象に、「平成23年度特許情報検索講習会(宇部地区第2回)」が、9月1日、2日の2日間にわたり常盤キャンパスで開催されました。

岡野特許商標事務所の岡野卓也弁理士を講師に迎え、特許基礎知識、特許情報検索についての講義と、山口大学特許検索システム(YUPASS)、特許電子図書館(IPDL)の検索ツールを使っての特許情報検索実務講習が行われ、医学部を始めとする大学教職員、学生や学内外のコーディネータ等25名が参加し、熱心に受講しました。アンケート結果によれば、本講習会は、初心者にとってわかりやすい内容で非常に有意義な講習会であったと好評でありました。

また、本講習会は、「特許情報検索インストラクター養成」のための講座も兼ねたものであり、実技試験の結果、12名が特許情報検索インストラクターに認定されました。

この特許インストラクター制度は、平成16年度から実施しており、文部科学省や他大学等からも高い評価を受けているところですが、特許インストラクター制度の効果は、学生インストラクターの実践的な知的財産活動の参画により知財人材の育成が図れ、知財教育を重視する企業等への就職活動に効果が発揮されています。また、大学においては、①学生インストラクターが、教員の研究テーマに関連する特許情報の提供、特許出願関連資料・データの整理等業務の支援をすることで、教員の業務負担の軽減を通じての研究者支援活動の推進、②出願時の弁理士費用低廉化による法人運営費の大幅な節減にもつながっています。

今後、知財教育や就職活動、大学運営のためにも本制度を大いに活用いただきたいと思います。

(注) 上記事業は、文部科学省が中心となって取りまとめた「研究開発システムの改革の推進等による研究開発能力の強化及び研究開発等の効率的な推進等に関する法律」の第40条第3項の「大学における研究開発の効率的な推進を図るために、特許情報の活用に努める」ことを推進するために企画されたものです。

イノベーションJAPAN2011出展

「イノベーション・ジャパン2011-大学見本市」は、9月21日(水)、22日(木)の両日、東京有楽町の東京国際フォーラムで開催されました。このイベントは我が国最大の産業界と大学をつなぐプラットフォームの一環で、8回目を迎える今年は、全国の大学・高専から300件以上の研究成果・シーズについての展示・発表がありました。また、例年6月に京都で開催されていた産学官連携推進会議も同時開催され、両日間で2万8千人の集客が実現しました。(昨年に比べ1万人増) 山口大学からは、下記3件の研究シーズを、展示・発表しました。

- 「レーザーによる燃焼温度分布の高解像度非接触測定」
山口大学 大学院理工学研究科 機械工学専攻 准教授 田之上健一郎
- 「希土類と磁石を必要としない高周波デバイス用人工磁性体」
山口大学 大学院理工学研究科 物質工学系 講師 小寺 敏郎
- 「遺伝子操作へのPCR増幅した直鎖DNAの利用」
山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構
イノベーション人材育成支援室 学術研究員 中村美紀子

展示にあたっては産学公連携機構のスタッフのみならず、実際に研究活動を行っている教員・学生の方々にも参加して頂き、企業の方に直接、説明・質疑応答して頂くように御願ひしております。従って、産学連携のみならず、研究の今後の方向性を御検討して頂く上でも有効であったのではないかと考えております。さらに、終了後、企業様より研究者との再面談の依頼も受け付けた案件もあります。

開催日初日は台風15号の首都圏直撃により交通機関が混乱し、山口大学からの参加者にも影響がりましたが、無事終了させる事が出来ました。御協力頂きました教員、学生諸氏はじめ関係機関の方々にもこの場を借りて御礼申し上げます。



講習会 (岡野講師による講習)



認定式
(三池機構長による認定書の授与)



殿岡裕樹コーディネーター(左)、
中村美紀子学術研究員(右)

Bio Japan 2011出展

10月5日(水)から7日(金)までの3日間、パシフィコ横浜にて開催されたBio Japan 2011に、本学産学公連携・イノベーション推進機構 中村研究員の研究シリーズ「直鎖状DNAの遺伝子操作技術への応用 ―酵母から哺乳動物細胞まで―」を出展致しました。

このたびの出展は、東京医科歯科大学が中心となって組織している「医学系大学産学連携ネットワーク協議会 (medU-net)」での共同出展でした。同ネットワークが目指す「一大学では成し得ない協業による産学連携の実践への取り組み」の一環として、幹事校の東京医科歯科大と、札幌医科大、聖マリアンナ医科大、東海大、奈良県立大、福井大、宮崎大及び山口大学が共同でブースを構え、セミナーなども共同して行って、より広い層へのPRを試みました。

会場には3日間で10,000を超える参加者が訪れ、賑わいを見せていました。また今回出展したシリーズは今年度からJSTの助成を受け、大学発ベンチャー起業を目指して研究開発を進めてまいりますので、皆様の一層のご支援を賜りたいと考えております。

理学部でのドクターコース進学セミナー

10月19日(水)、産学公連携・イノベーション推進機構と理学部との共催により、理学部の学生を主対象とした「キャリアとしてのドクターコース-学び・就職・職業-」が開催されました。本セミナーでは、ドクターコースを修了後企業に就職している先輩、企業の人事担当、大学教員となった理学部若手教員の方を講師にお迎えし、ドクターコースへの進学を人生の選択肢の中の一つとして考えるきっかけとなることを意図して開催されました。参加者は約70名、質疑応答も活発で盛況でした。

初めに理学部の朝日教授から今回のセミナーの開催趣旨について説明があり、田中理学部長の、博士後期課程学生への経済的な支援を用意しているのでドクターコースへの進学を考えてほしい、との開催挨拶に続き、三人の講師の方から自己紹介を兼ねた約15分の講演が行われました。

最初に、本学後期課程平成18年3月修了の住友金属鉱山(株)新居浜研究所の中井隆行氏から、博士後期課程在学中の様子やリクナビを利用した就職活動、入社後の仕事、海外での業務に博士の肩書きは有効と感じた等、具体的にお話頂きました。続いては(株)リガク人事課長の峯岸俊行氏から、企業が求める人物像は、知識と経験を持ち、即戦力になる人材とのお話を頂きました。大学教員の例として理学部永島真理子講師から、博士後期課程修了後のヨーロッパへの留学の経緯や現地での研究活動から、これからはグローバルな視点が大切であるとお話頂きました。

講師の方々のそれぞれの視点による講演に続いて、学生支援センターの平尾教授の当意即妙な司会によるパネルディスカッションがあり、会場の参加学生から多くの質問が出されました。

問) 博士前期課程(マスター)修了者と博士後期課程(ドクター)修了者の違いはあるのか?

答) ドクターには高度の問題解決力・リーダーシップ・コミュニケーション能力を求められる。

問) 学生時代にどのようにして英語力を高めたのか?

答) 英会話教室に通った。一日に一つ英語論文を読むことを課した。英語のラジオを聞き、字幕を見ずに映画を観た。学生時代よりも入社後のホームステイ等で身に付けた。

問) 博士後期課程に進んで苦労した点は?

答) レベルの高い研究成果が求められるのでプレッシャーがある。

問) 博士後期課程での経済面は?

答) 奨学金やRA、大学でできるアルバイトをしていたのでとくに困ることはなかった。学生自身で申請できる研究助成金もあるので、調べてみたらよい。



中井氏(住友金属鉱山(株))による講演



峯岸氏(株)リガクによる講演



永島講師(理学部)による講演

最後に、これからキャリアを考える学生に、中井氏からは「ドクターを持っていた方が良いと思うが、専門分野だけでなく幅広い知識を学んでほしい」、永嶋講師からは「博士後期課程への進学を迷うなら、進学を勧める。たくさんのお会いがあり、人としていろいろな経験ができ、コミュニケーション能力が養われると思う」とのアドバイスがありました。また、峯岸課長からは「会社で働くことはお金をもらうための労働提供であるが、コミュニケーション能力が大切である」とのアドバイスも頂きました。

セミナー終了後には「今後の進路を考える良いきっかけになった」との声も多く聞かれ、大変有意義なセミナーでした。今後も開催されることが望まれます。



パネルディスカッションの様子

平成23年度産学公連携・イノベーション推進機構 若手イノベーション人材育成プログラム発表会

10月31日(月)、産学公連携・イノベーション推進機構主催により若手イノベーション人材育成プログラム発表会が開催され、丸本学長をはじめとする37名の参加がありました。

若手イノベーション人材育成プログラムは旧山口大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの博士研究員雇用制度を継承・発展させ、博士研究員がパーマネントの職を得るためのステップとして研究や産学公連携支援などのOJTを中心とした職能開発を行うことを目的としたものです。

はじめに三池機構長から、このプログラムは旧山口大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーのポストドク制度を継承した若手の人材育成事業で、今回が初の発表会であるとの挨拶がありました。続いてイノベーション人材育成支援室長の李准教授から本プログラムの制度についての説明として、イノベーション人材育成支援室の取組み概要や活動項目、また若手イノベーション人材育成プログラムの制度・経緯や今後の活動等、今回は最終年度（3年目）を迎えた2名の研究員による成果発表であること等、説明がありました。

次に育成対象者による活動状況の発表として、中村美紀子研究員（研究開発職）による研究業務や機構支援業務の説明、および自己研鑽についての詳しい報告がありました。続く田口岳志イノベーション研究員（研究支援職）からはこれまでの活動状況や実績、地域連携の新たな枠組みづくり等についての詳しい報告がありました。両研究員の発表後には、参加者から多数の質問・コメントを頂き、活発な質疑応答がなされました。丸本学長からも、産学公連携の分野を充実させることは重要であり、特に産学公連携活動を通じて研究推進や教育の質の向上に資することが重要である等のコメントを頂きました。最後に山本副機構長から、両研究員は本プログラムで成果を出しただけでなく、成果を出す「学び方」を本プログラムを通じて修得し、これがこれからの将来に大きな力になっていく、との閉会の挨拶を頂きました。



三池機構長の挨拶



李准教授による
本プログラムの制度についての説明



中村研究員による発表



田口研究員による発表



学長からのコメント



山本副機構長の閉会挨拶

JST地域産学官共同研究拠点整備事業「やまぐちイノベーション創出推進拠点」

山口県地域の産学官連携の総合的な取り組みを推進するための拠点 『やまぐちイノベーション創出推進拠点』がJSTによって山口大学（常盤キャンパス）と山口県産業技術センターに整備されました。

ホームページ → http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/innovation/index.php?submode=mcyi_main

本拠点には下記に示す各種の最新設備・機器が設置されています。2機関が従来から保有しているオープン利用機器もご利用いただけます。利用を検討したい、ご興味をお持ちの企業・研究者の方がいらっしゃいましたらお気軽に下記お問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

＜本件についてのお問い合わせ先＞

山口大学産学公連携・イノベーション推進機構（担当: 林）

電話：0836-85-9976 FAX：0836-85-9952 電子メール：yuic@yamaguchi-u.ac.jp

--【研究設備リスト】設置場所:山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構 -----	設置部屋
■サーマル電界放出形走査電子顕微鏡 JEOL JSM-7600F	先端研究棟1階 電子顕微鏡室
■透過型電子顕微鏡システム JEOL JEM-2100	先端研究棟1階 電子顕微鏡室
・集束イオンビーム加工観察装置 JEOL JEM-9320FIB	先端研究棟1階 電子顕微鏡室
■ソーラーシミュレータ EKO SS-156XIL	先端研究棟2階 新エネルギー実験室
■CO/CO2有機炭素分析システム	ビジネス・インキュベーション棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室3
1. ガス濃度分析装置 島津 CGT-7000タイプ1A	ビジネス・インキュベーション棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室3
2. ガスクロマトグラフシステム 島津 GC-014AF/SPL	ビジネス・インキュベーション棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室3
3. 全有機炭素計 島津 TOC-Vcph	ビジネス・インキュベーション棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室3
■熱分解ガスクロマトグラフ・質量分析システム	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室1
1. ガスクロマトグラフ質量分析装置 島津 GCMS-QP2010Plus	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室1
(差動型示差熱天秤)Thermo Plus Evo	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室1
2. ガスクロマトグラフ質量分析装置 島津 GCMS-QP2010Plus	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室1
(加熱脱着装置)TD-20	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室1
(熱分解装置)PY-2020iD	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室1
■ナノ粒子径分布測定装置 島津 SALD-7100	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室1
■汎用画像センシングシステム	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室2
1. ハイビジョン認識システム	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室2
2. レーザー形状測定器 キーエンス LT-9010M	共同研究開発棟2階 省エネ・環境マテリアル実験室2
■クリーンルーム	共同研究開発棟2階 マテリアル試作エリア
■二次元輝度計 東陽テクニカ ICAM	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
■共焦点レーザー顕微鏡 ZEISS LSM LSM710 Config.2	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
■自動細胞解析分取システム	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
1. 自動細胞解析分離分取システム BD FACSAria III	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
2. 全自動磁気細胞分離装置 autoMACSTMP Pro Starting Kit	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
3. 酵母用マイクロマニピュレーションシステム Singer MSM c System 400	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
4. 高速菌体移設装置 Singer Instruments RoToR HDA	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
■細胞培養装置	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
1. 蛍光顕微鏡 キーエンス BZ-8100	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
2. 吸収測定装置 HITACHI U-5100	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
3. 発光測定装置 ベルトールドジャパン(株)LB960	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
4. 発光測定装置 ベルトールドジャパン(株)LB970	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
5. 細胞培養装置	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
・微生物細胞培養装置 NBS NB-250	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
・動物細胞培養用高密度細胞培養装置 Bellstaga-3000	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
・CO2インキュベーター SANYO MCO19AIC	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
6. 超低温フリーザー SANYO MDF-1156ATN	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
7. 超低温フリーザー SANYO MDF-U384	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
8. オートクレーブ TOMY LSX-700	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
9. CO2インキュベーター SANYO MCO-19AIC	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
10.CO2インキュベーター SANYO MOC-18M ⁺	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
■超遠心機	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
1. 超遠心機 BECKMAN COULTER Optima L-100XP	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
2. 高速冷却超遠心機 BECKMAN COULTER Avanti J-E	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
■イメージングシステム	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
1. イメージングサイトメーター IN Cell Analyzer 2000システム	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
2. イメージアナライザー TyphoonFL9000BGR	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室
3. 生細胞遺伝子発現解析システム BioTek社Synergy MX SMATBL	共同研究開発棟2階 環境・バイオ実験室

--【研究設備リスト】設置場所:山口県産業技術センター -----
■フィールドエミッションオージェ電子顕微鏡 JAMP-9500F
■X線CT装置 島津 inspeXio SMX-225CT
■基板評価システム
1. レーザー干渉平面度測定装置(株)ニデックFlatMaster200XRA-Wafer
2. 干渉膜厚計 日本電計(株)TW-10-40000-5L-D2

セミナーのご案内

平成23年度山口大学産学公連携・イノベーション推進機構セミナー(第5回) ゼロから学べる生物多様性条約

～研究者必須の生物遺伝資源とはから利用上の留意点まで～

生物多様性条約とは、今世界中で注目され、研究活動にも大きく関係する、次項を目的とする国際条約です。

1. 生物多様性の保全
2. 生物多様性の構成要素の持続可能な利用
3. 遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分

大学においても、近年、海外の遺伝資源（動植物や微生物等）を利用した国際共同研究が盛んに行われています。本セミナーでは、海外の遺伝資源の利用に際しての国際ルールである生物多様性条約の概要、アカデミアの研究者が知っておくべき留意点等について、実例を交えてわかりやすくご紹介いたします。

日 時：平成23年11月22日（火）15：30～17：30
会 場：山口大学吉田キャンパス 農学部 大会議室（本館2F）
主 催：山口大学産学公連携・イノベーション推進機構
共 催：山口大学農学部
お申し込み・お問合せ先：
山口大学産学公連携・イノベーション推進機構
イノベーション人材育成支援室
Tel：0836-85-9983 Fax：0836-85-9962
E-mail：career@yamaguchi-u.ac.jp

【プログラム】

15:30～15:35
開催挨拶
山口大学産学公連携・イノベーション推進機構
機構長 三池 秀敏

15:35～15:45
問題提起（イントロダクション）
～実際の国際共同研究における生物遺伝資源の
利用に際して～
山口大学産学公連携・イノベーション推進機構
知的財産部門 部門長 佐田 洋一郎

15:45～17:15
講演「海外生物遺伝資源の利用に際しての
国際ルールと大学研究者が注意すべきこと」
バイオインダストリー協会 生物資源研究所
所長 荻崎 義康

17:15～17:25
質疑応答

17:25～17:30
閉会挨拶
山口大学農学部長 山内 直樹

ご興味のある方は奮って
ご参加下さい。
(参加費は無料です)

ホームページ：<http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/information/event.php?id=E2011101711432280>

最新の植物工場の地方展開に関するセミナー

日 時：平成23年12月7日（水）14：00～17：00
会 場：翠山荘「カトリア」（山口市湯田温泉3-1-1）
主 催：「やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議」
コーディネータ連絡会議
後 援：山口県農林総合技術センター、山口市、宇部市、
公益財団法人ちゅうごく産業創造センター
お申し込み・お問合せ先：
山口大学産学公連携・イノベーション推進機構
（担当：清水谷・櫻井・近藤）
TEL：0836-85-9976 FAX：0836-85-9962 E-mail：cay@yamaguchi-u.ac.jp

【プログラム】

- ①主催者挨拶
 - ②我が国における植物工場に関する施策（経済産業省）
 - ③最近の植物工場の動向：山本晴彦教授（山口大学）
 - ④最新の植物工場と誘致計画：阿部 隆昭氏（株）グランバ
 - ⑤閉会挨拶
- ※終了後、(株)グランバ代表取締役はじめ関係者の方々との
個別の情報交換会（17:30～19:00、有料）にもご参加
ください。

ご興味のある方は奮って
ご参加下さい。
(参加費は無料です)

ホームページ：<http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/cay/news/news111207.pdf>

出展のお知らせ

中国地域さんさんコンソ 新技術説明会

日 時：平成23年11月25日（金）10：00～16：10
会 場：JSTホール（東京・市ヶ谷）
主 催：中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）、独立行政法人科学技術振興機構
定 員：100名（事前登録制）
ホームページ：<http://www.jstshingi.jp/sansan/2011/index.html>

ご興味のある方は奮って
ご参加下さい。
(参加費は無料です)

山口大学からは、下記発表をいたします。みなさまのお越しをお待ちしております。

〇11:50～12:20 【防災】

住民の、住民による、住民のための防災情報システム

Disaster prevention information system of the community, by the community, for the community

山口大学 大学院理工学研究科 環境共生系専攻 教授 三浦 房紀

山口大学産学公連携・イノベーション推進機構

Innovation Center, Yamaguchi University

連絡先：〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1

発行：山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 TEL:0836-85-9961 FAX:0836-85-9962

E-mail:yuic@yamaguchi-u.ac.jp ホームページ：<http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/>